

「みささぎナビ」

(NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会、阪南大学、株式会社アスウェル、羽曳野市観光協会、京都フラワーツーリズム)

〔概要〕

2012年3月から民学産官で準備を始め8月1日に配信を開始した「みささぎナビ」は、百舌鳥古墳群とともに世界文化遺産への登録をめざす古市古墳群のナビゲーションシステム。

主要な機能として「防災情報」「古墳情報」「車椅子で利用できるトイレ情報」「観光情報」などがある。ここでは、「防災情報」「古墳情報」について紹介する。

〔コラム〕

(1)羽曳野市、藤井寺市の防災情報

■概要

- ・羽曳野市、藤井寺市の避難施設、福祉避難施設、避難救助拠点、交番の情報です。
- ・ホームページ及びスマートフォンアプリの地図上に分かりやすく表示しています。現在地からの経路案内を行ないます。また、目的地を写真やストリートビューで見ることができ、目的地を事前に把握でき、スムーズに辿り着けます。

■社会課題

- ・自治体は、紙媒体の防災マップを全戸に配布しているが、近くの避難所がどこにあるのかを多くの住人や移動通過者には知られていない。
- ・多くの住人が防災マップを知っていても、自宅のどこに置いたのかを忘れてしまっている。住んでいる人でも避難所を知っている人は非常に少ない。
- ・一方、観光客やビジネスなどの移動通過者の大半の方は、避難所が分からない。

■自治体が公開している1次情報

- ・羽曳野市 防災マップ(紙MAPとJPG画像)
<http://www.city.habikino.lg.jp/10kakuka/24kikikanri/04bousaimap/files/hazerd07.jpg>
- ・藤井寺市 防災マップ(紙MAPとJPG画像)
<http://www.city.fujiidera.osaka.jp/resources/content/1757/20130820-124100.pdf>

■課題解決への工夫

1)自治体が公開しているMAPをもとに、図1に示す工程作業をおこない、社会的課題に対して高い満足度が得られるようにサービス提供をおこなった。

2)データの付加価値

- ・避難施設の正門を位置情報とし、避難施設の正門の写真を撮影した。

(理由:避難所が学校の場合、正門とすることで、スムーズな誘導を実現するため。)

3)利便性の付加価値

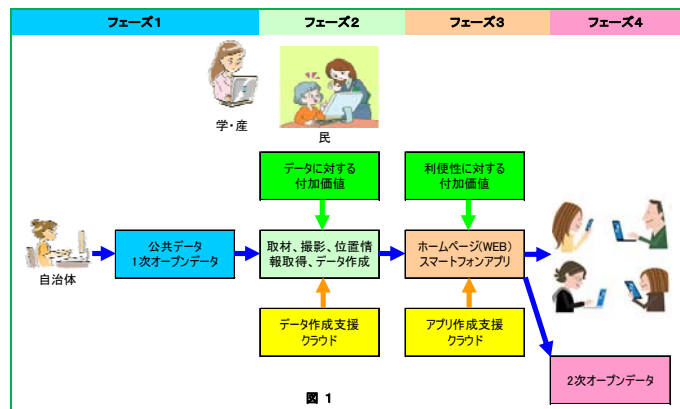
- ・地図上に避難所を全て表示、リストでも表示、各避難所の詳細を写真付きで紹介
- ・現在位置から選択した避難所へルート案内、選択した避難所をストリートビューで表示

4)データ更新の容易性

- ・データを簡単に作成、更新できるように、データ作成支援クラウドを用意した。

5)オープンデータ化

- ・作成したデータを、オープンデータ化し公開している。



(2)古墳情報

■概要

古市古墳群は、羽曳野市、藤井寺市、柏原市、太子町に大小 87 基の古墳が現存している。それらのすべての古墳について、ビューポイントの位置情報や学術的見地、現状写真を入力して、ホームページ及びスマートフォンアプリを通して情報の発信を行っている。地図上に分かりやすく表示を行い、また、ストリートビューで目的地を見ることが出来る。事前に目的地を把握することが可能となりスムーズに辿り着くことができるようになっています。

■社会課題

- ・大型古墳のビューポイントや小型古墳の位置がわからない。
- ・古墳へのアプローチや立ち入りの可否がわからない。
- ・墳丘が森に包まれて全体の形がわからない。
- ・古墳の価値や見どころがわからない。

■利用した1次情報

- ・『藤井寺市史・通史編 1』(藤井寺市)
- ・『羽曳野市史・本文編 1』(羽曳野市)
- ・「百舌鳥・古市古墳群案内冊子」数種(百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議)
- ・『陵墓地形図集成』(宮内庁書陵部)

■課題解決への工夫

- 1) 図 1 に示す工程作業をおこない、社会的課題に対して高い満足度が得られるようにサービスの提供をおこなっている。
- 2) データの付加価値
 - ・一般の古墳情報については、羽曳野市。
 - ・藤井寺市の公式刊行物ならびに百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議のデータを基に最新の考古学的な知見を加えて適宜編集した。
 - ・天皇陵・皇后陵・皇子墓・皇女墓に治定されている古墳については、宮内庁ホームページに掲載された名称を基にして記述し、墳形の記述においては、宮内庁諸陵部編『陵墓地形図集成』の測量図を参考にした。
- 3) 利便性の付加価値
 - ・地図上に古墳群内に現存する大小の古墳をすべて表示。
 - ・墳丘へのアプローチ、進入の可否や大型古墳のビューポイントを選択・表示。
 - ・個別の古墳について、PDF ファイルで詳細な説明を付記。
- 4) データ更新の容易性
 - ・データを簡単に作成・更新できるように、データ作成支援クラウドを用意した。
- 5) オープンデータ化
 - ・作成したデータをオープンデータ化して公開している。

■公開URL [「防災情報」、「古墳情報」などの公開サイト情報]

【Web アプリ】 <http://misasagi.i2navi.net/disaster>

【iOS アプリ^{※1}】 <https://itunes.apple.com/jp/app/id398326620>

【Android アプリ^{※1}】 <https://play.google.com/store/apps/details?id=net.flower tourism.itournavi>

【2次的オープンデータの公開】 <http://habikino.i2navi.net/>

※1. 「iOS アプリ」と「Android アプリ」は、「ご当地なび」をダウンロードしてください。

[問い合わせ先]

京都フラワーツーリズム 高木治夫

TEL:090-1133-1358 e-mail:haruo.takagi@gmail.com

やまなしFree Wi-Fi プロジェクト／富士の国やまなし観光ネット (山梨県)

〔概要〕

山梨県では、外国人旅行者の利便性向上のために無料Wi-Fiスポットの充実を推進し、このWi-Fiネットワークをベースとして、富士の国やまなし観光ネットを情報プラットフォームとした各種情報提供サービスを実施しています。

〔コラム〕

①サービス・事業の背景や経緯

当時、山梨県では、富士山の世界遺産登録に向けて、今後の急増が予想される外国人観光客を受け入れる環境整備を進めてきました。外国人観光客のニーズを探る中で、無料で手軽に利用できるWi-Fi環境が日本国内に圧倒的に少ないことに非常に困っていると分かりました。海外では、無料のWi-Fiスポットが多数存在しており、そうしたWi-Fi環境を山梨県でも整備する必要があると考えました。

②サービス・事業内容の詳細

平成24年1月11日、官民協働方式で「やまなしFree Wi-Fi プロジェクト」を立ち上げ、観光に親和性のある多数の地元施設、企業等の参画を募る形で、県内のWi-Fi環境の整備に取り組むこととなりました。まず、Wi-Fi環境整備の目的について、より多くの人に賛同してもらいたいと考え、「やまなしFree Wi-Fi プロジェクト」の発足に際して、「外国人観光客の利便性向上と周遊促進を通じた地域活性化の一助にする」という明確なビジョンを打ち出して、次のように3段階のフェーズで着実なステップアップを目指すこととしました。

【第1段階】平成24年度に500カ所、平成25年度には1,000カ所のキャリアフリーの無料Wi-Fiスポットの設置を目標に定めてインフラ整備に乗り出しました。

【第2段階】外国人観光客がより手軽にWi-Fi環境を利用してもらえるようにするため、参画企業のNTT東日本の協力を得て、二週間無料で利用できる「Wi-Fiカード」を作成して、さらなる利便性の向上を目指しました。

【第3段階】平成25年度、情報コンテンツの充実を図り、外国人観光客の滞在・周遊促進につなげ、地域経済への還元も目指すこととしました。

平成24年1月11日のプロジェクト発足の報道発表は、翌日の地元新聞の一面を飾るなど、「やまなしFree Wi-Fi プロジェクト」の反響は大きく、当初の目的の1,000ヶ所設置を半年前倒して実現しました。平成25年12月末現在では1,455スポットの設置が実現しています。

本プロジェクトでは、Wi-Fiスポットの導入コストは光回線の敷設も含めて、設置場所の土産物屋やカフェなどに負担していただき、一方の県側はWi-Fiを通じて提供する情報コンテンツの充実等を担当するというスキームとしています。短期間でこれだけ多数のWi-Fiスポットを整備できたのは、外国人観光客の利



【 <http://www.yamanashi-kankou.jp/wi-fi/> 】

便性向上・周遊促進という明確なビジョンとそのビジョンに多くの賛同を得られたことが大きな要因だと考えています。さらに、プロジェクトに携わった者全てがWi-Fi スポット設置に向けて各地を訪ね、サービスの利便性、必要性を“汗をかいて”説明する一方、どういったコンテンツが求められているのか、集客アップに向けてどういう施策を実践してほしいのかなど、現地の抱える課題やニーズを把握して、コンテンツ作成に盛り込めたことも大きな成果要因だと考えています。

Wi-Fi スポットの多くは、外国人観光客が立ち寄る土産物屋やレストランなどに設置されていますが、富士山の世界遺産構成施設である3つの浅間神社や船津胎内樹型にも設置されています。神社の宮司さんもWi-Fi スポットに高い関心を示しており、今後は構成資産としての神社にまつわる情報提供などコンテンツの拡充を図る予定です。

さらに、滞在現地にWi-Fi があるからこそ可能となるサービス展開として、外国語によるバス運行情報サービスの提供も始まっており、スマートフォン向けのサイト「やまなしバスコンシェルジュ」から観光スポットを入力することで、目的地近辺のバス停を表示したり、バスの運行状況やバス停付近の観光情報を探したりできるようになっています。バスに搭載したGPSを利用して、路線バスの運行状況をスマートフォン上で確認できるサービスも提供されています。

また、2013年7月からはNTT 東日本と共同で、外国人観光客向けに地域情報を配信するエリアポータルサービス「Tourist Information」を新たに提供開始しました。「光ステーション」の設置場所に合わせた情報提供を地域ポータルとして情報配信するもので、各種コンテンツは県等が提供しています。さらに9カ国語での世界遺産構成資産ガイドブックや便利な旅のための指差し会話帳、公共交通案内、安全な旅のためのハザードマップや緊急災害時の行動支援情報なども提供しており、外国人観光客からも好評を得ています。「光ステーション」は災害時にインターネット無料開放機能を備えており、万一の事態には地域住民への情報提供や安否確認に役立てられるなど、災害対策としても有効なツールとなっています。

最後に本プロジェクトの今後の展開として、山梨県では、1,000を超えるWi-Fi スポットを、外国人観光客の利便性向上のためだけでなく、地域と観光客をつなぎ、コミュニケーションを促進するプラットフォームとしても活用したいと考えています。単なるインフラ整備ではない領域を目指すものであり、観光のみならず、山梨にある産業や文化などのすばらしい資源について、山梨県を訪れた人に気付いてもらえるようなコンテンツや仕掛けを提供したいと考えています。

③事業費

県予算：無(コンテンツにかかる経費のみ)、Wi-Fi 整備(NTT 東日本)、通信費等(Wi-Fi 設置観光事業者等)

〔問い合わせ先〕

- ・山梨県 観光部観光振興課
- ・電話番号：055-223-1557 FAX 番号：055-223-1558
- ・e-mail：kankou-sk@pref.yamanashi.lg.jp



【富士御室浅間神社】

携帯電話ボランティア情報システム ボランティアフォン

(松山市社会福祉協議会・松山市ボランティアセンター)

<http://www.matsuyama-wel.jp/vc>

〔概要〕

松山市ボランティアセンターでは、個人ボランティア登録の際、簡単な手続きをするだけで、タイムリーなイベント・ボランティアの情報を得ることができる「携帯電話ボランティア情報システム ボランティアフォン」を活用しています。

登録後、随時、携帯電話にボランティアセンターからイベントやボランティア募集の情報メールが送られてきますので、『参加する』のボタンを押すと携帯電話からそのままボランティア活動に参加申込みできます。

〔コラム〕

ボランティアセンターではボランティア情報の発信手段として、「ボランティア情報紙 おせたい通信」を発行しています。現在はホームページで随時ボランティア募集の情報も掲載しておりますが、原稿締め切りに間に合わない依頼や締め切り間近なボランティア募集等については、職員が手分けをして登録ボランティアに電話で連絡をしていました。しかし、昼間は繋がらないことが多く、もし繋がったとしても電話だと「参加します！」と即答されるのは難しいようです。

そんな状態の中で、ボランティアの学生さんが携帯電話のメールを楽しげに、しかも瞬時に送受信を行っている姿を見て「ボランティアのコーディネートにも使えるかもしれない」と思いつきました。

「ボランティアフォン」の登録は簡単にできます。ボランティアセンターにお越しいただき、個人ボランティアの登録用紙に住所・氏名・携帯メールアドレス等を記入し、実際にメールが届くか確認テストを行い登録完了となります。その後は、ボランティアセンターから発信された情報の内容を確認し、興味があれば「参加する」ボタンをクリックしてもらいます。そうすると、ボランティアセンターでは誰が参加するという情報が一覧で解るシステムとなっています。また、質問等があれば、「質問・問い合わせ」ボタンをクリックし内容を入力して送信いただければ、メールでお答えするという仕組みになっています。

携帯電話やスマートフォンが一人に一台という時代、ボランティアの参加を呼びかける手段としては最適だと思いますし、増大するボランティア登録者への連絡方法として少ない職員で対応できる簡便な方法であると考えています。もちろん、その他の媒体も廃止したわけではなく、従来からある紙媒体の「おせたい通信」とホームページのボランティア情報、そして、「ボランティアフォン」を併用することで、より迅速かつ確実に情報が発信できています。

現在（H25.11）983名の方が登録をされています。実際に登録しボランティアに参加した方からは、「タイムリーな情報が届く」、「友達同士で相談ができる」、「気軽に参加できる」等の声が寄せられています。

〔問い合わせ先〕

社会福祉法人 松山市社会福祉協議会 地域福祉課 松山市ボランティアセンター

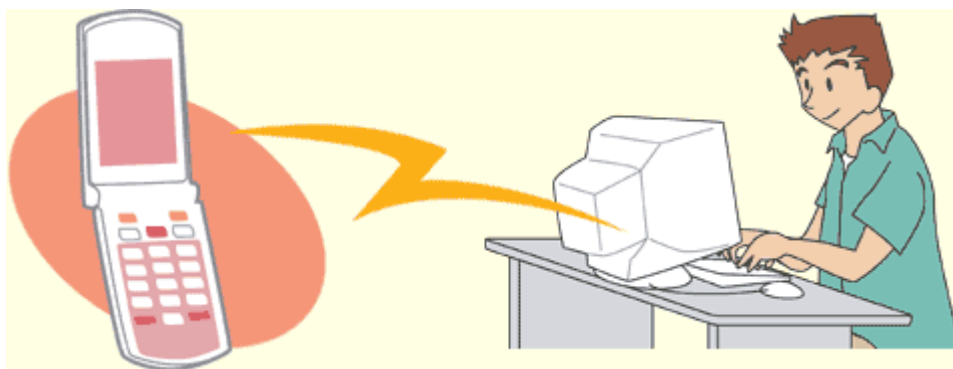
TEL:089-921-2141 FAX:089-921-8360 e-mail:vc@matsuyama-wel.jp

携帯電話ボランティア情報システム ボランティアフォン

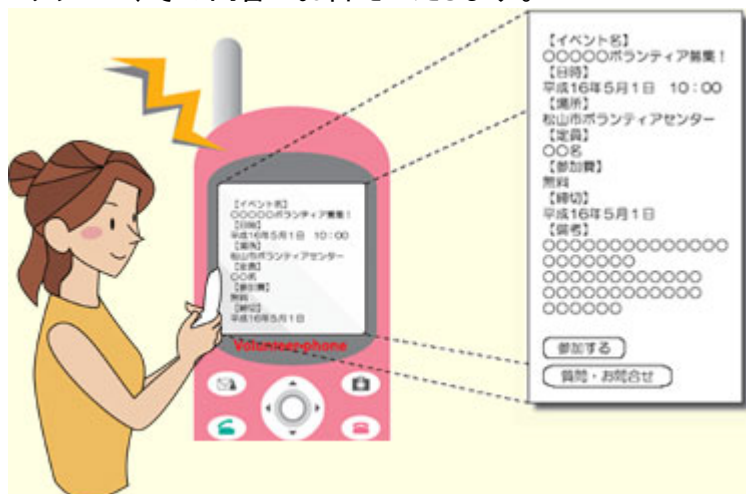
ボランティアフォンに参加すると、簡単な手続きをするだけで、タイムリーなイベント・ボランティアの情報を得ることができ、また携帯電話からそのままボランティア活動に参加申込みできます！

1 手続きは簡単です。松山市ボランティアセンターの個人ボランティア登録申込カードに住居・氏名・携帯電話のメールアドレス等を登録いただきます。(登録時のみボランティアセンターに来所頂く事になります。)

2 登録後、随時あなたの携帯電話に、スタッフからイベントやボランティア募集の情報メールが送られてきます。



3 メールを確認し、参加する時は「参加する」ボタンを押すだけで、あなたの参加を受け付けていたします。その後の手続きなどは必要ありませんので、そのまま当日会場にお越し下さい！（手続きが必要な場合や伝達事項がある場合もメールで連絡いたします。）もう少し詳細を知りたい、という場合は、「質問・お問合せ」ボタンを押して、内容を記入後、送信して下さい。スタッフが、その内容にお答えいたします。



基本的に、全てメールでのやりとりとなりますので、いつでもお気軽に参加申込み・お問合せが可能です。

※ボランティアフォンに登録頂いた携帯電話メールアドレス等は、松山市社会福祉協議会(松山市ボランティアセンター)からの情報発信以外には使用しません。

「スマイル 松山」プロジェクト
～1日1マイル歩こう 観光で笑顔になろう～
(愛媛県松山市)

【概要】

「スマイル松山プロジェクト」は、半径5km圏内にある都市機能が集中するコンパクトシティ松山の特性を活かし、「住んでよし、訪れてよし」の活力ある街であり続けるために、「ウォーキング(街歩き)」を軸に、情報通信技術を活用したまちづくりを展開するものであり、松山市と愛媛大学、民間事業者が産官学連携して、(1)健康ICT事業、(2)観光ICT事業、(3)防災ICT事業の3事業を実施。ICTを有効に活用することで、住民の健康増進を図り、周遊型観光を実現し、住民、観光客の避難支援、安否確認の仕組みの確立を目指しています。



スマイル松山プロジェクト全体

スマイル松山

「スマイル 松山」プロジェクト
～1日1マイル歩こう 観光で笑顔になろう～

【健康】	【観光】	【防災】
		
【健康ICT】 健康状態の把握と改善	【観光ICT】 滞在型観光の推進	【防災ICT】 防災基盤の強化
<ul style="list-style-type: none">●パーソナル・メディカル・チェック支援●専門的な健康アドバイスの提供●ウォーキングマップをスマホ対応、既存ウォーキングイベント等と連携	<ul style="list-style-type: none">●利便性の高い観光情報の提供●「街歩き」の活性(地元ガイドと連携)●街歩きの健康価値を見える化(消費カロリー表示)	<ul style="list-style-type: none">●健康・観光街歩きマップとあわせて防災マップを情報提供(平時)●避難支援と安否・所在確認システム(緊急時)

【コラム】

① 健康ICT事業：健康状態の把握と改善

健康支援・記録ツール「健康ナビ」と「健康ナビ」にデータが自動的にたまる活動量計を使って活動量、健診履歴、健康データ等、一人ひとりの健康状態を正確に把握し、専門家による分析を行い、一人ひとりに併せた専門的な健康アドバイスの提供を行っています(愛媛大学医学部、教育学部監修)。

② 観光ICT事業：街歩きの活性、滞在型観光の推進

防災ICT事業：防災基盤の強化

観光・防災・健康に役立つスマートフォンアプリ「スマイル松山 ハイク&安心ナビ」を開発。平常時には、位置情報と連動した観光情報の表示や、俳句作成・投句・閲覧機能を持つスマートフォンアプリです。また、災害時には避難支援や安否確認を行える防災支援アプリとして機能します。

① 健康ナビ <https://kenkonavi.smi le-matsuyama.com/rescuematu/rot010/>

「スマイル松山 健康ナビ」って何？



「スマイル松山健康ナビ」は、2013年の秋、松山市でスタートした「スマイル松山」プロジェクトの一部門である「健康ICT事業」の中核サービスです。
 「スマイル松山」プロジェクトは、松山市を中心とした産学官が力を合わせ、総務省に ICT 街歩き事業として共同で提案し採択された事業で、ICT（情報通信技術）を活用したウォーキング（街歩き）により、市民が健康で住みやすく、観光客に魅力ある街を目指すプロジェクトです。
 プロジェクトの最初のテーマである「健康 ICT 事業」は、健康支援・記録ツール「健康ナビ」と、「健康ナビ」にデータが自動的にたまる活動量計を使って、専門家の支援を受けながら簡単・便利に健康づくりを実現できる新しい環境を、松山市民のみならずまへ提供いたします。

「スマイル松山 健康ナビ」でできること

参加される方がいつでもご自身の健康状態について記録・閲覧できるように、様々な健康データをお預かりするサービス。今回「健康 ICT モニター」として申し込まれた方にサービス ID を配布、パソコンやスマートフォンを通して、無料でご利用いただけます。

健康手帳機能

日々の自分のカラダやココロの状態を書き込み、残していくための機能。記録した内容は、表や時系列のグラフで見やすく表示でき、経過が一目でわかるので、自分の健康を気づかう習慣が自然に身につきます。



健診記録閲覧

健診の結果をパソコンやスマホでいつでもどこでもご覧いただくことのできる機能です。今回は、いただいた結果表をデータ化のうえ大切に保存・ご確認くださいませ。

●「スマイル松山」プロジェクトとは
5つのメリット

実績のある指導者がプログラムを提供します！
300名以上を指導 平均-5.6kg、ウエスト-7.2cm*

- メリット 1** 日々の活動量を記録できる！
無料で活動量計をお貸しして、あなたの日々の活動量を簡単に記録します。
- メリット 2** 健康診断結果などが一括管理できる！
健康診断結果と日々の活動量を特設サイトにて一括管理し、いつでも閲覧できます。
- メリット 3** 一人一人に専門的なアドバイスが受けられる！
愛媛大学医学部(抗加齢・予防医療センター)、愛媛大学教育学部(保健体育科)によるアドバイスがメールで送られてきます。
- メリット 4** 運動指導員による活動のサポートが受けられる！
チャレンジコース(限定100名)の方は健康運動指導士による週1回の直接指導がうけられます。
会場：松山市総合コミュニティセンター
参加者全員、期間中のウォーキングイベント(2回予定)で、運動指導士による効果的なウォーキングを学ぶことができます。
- メリット 5** スマホユーザーは健康ウォークがもっと楽しめる！
スマホをお使いの方はユーザー専用アプリに搭載された健康街歩きマップを使ってさまざまな健康ウォークが楽しめます。

※「チャレンジコース」は健康データ測定会の結果により、事務局よりご推奨し同意した上でご参加いただけます。

- 観光ICT事業 ○位置情報と連動した観光情報表示 ○街歩きの健康効果見える化 ○俳句作成・投句・閲覧機能
- 防災ICT事業 ○街歩きによる防災啓発 ○避難支援 ○安否確認

※松山市文化・スポーツ振興財団のメタボリックシンドローム予防事業「プロジェクトD」の実績です。

② 「スマイル松山ハイク&安心ナビ」

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kanko/kankoguide/kankomeguri/SUMILE.html>

本アプリの概要

- (1) 観光ルート/健康ルート案内
- (2) 俳句の投稿/閲覧
- (3) お勧めの観光スポット/料理店の検索
- (4) 避難所検索/標高情報の表示/現在地送信機能

〔問い合わせ先〕

松山市役所 観光・国際交流課

TEL:089-948-6558

Fax:089-943-9001

e-mail: kanko@city.matsuyama.ehime.jp

観光・街歩きの もしものときの “楽しさ”と“安心”を持ち歩く！
スマイル松山 ハイク&安心ナビ いよいよ登場!!

- Googleマップと連動した観光・健康習歩者ルート案内
- 自分だけのオリジナル俳句を届けることができます
- ソーシャルメディア(「海戸山山道」)と連携
- おすすめの観光スポット・料理店の検索
- 大規模災害(地震、津波、水害)が起きたときも安心

App Store / Google Play / 二次利用コードが読み込めない場合は App Store または Playストア で検索 / スマイル松山

スマイル松山プロジェクトとは、平成24年度地域創生事業に採択された「松山ハイク」事業の一環として、松山市、愛媛大学、松山大学、松山大学健康科学部との連携により、健康づくりを推進する。ICT(情報通信技術)を活用したウォーキング(街歩き)により、市民が健康で住みやすく、観光客に魅力ある街を目指すプロジェクトです。

スマイル松山プロジェクト観光・防災ICT事務局 | E-mail: info@smile-matsuyama.com
松山市、愛媛大学、松山大学、松山大学健康科学部、松山大学健康科学部、松山大学健康科学部

車椅子で利用可能なトイレ情報 (京都市、宇治市、羽曳野市、宇多津町)

〔概要〕

車椅子利用者が観光を楽しむためには、利用できるトイレ情報の事前把握が不可欠。「ご当地なび 京都エリア」(京都市、宇治市)、「みささぎナビ」(羽曳野市)、「宇多津劇場」(宇多津町)のトイレ情報について紹介する。

〔コラム〕

■取材、撮影チーム

- ・「ご当地なび」(京都市、宇治市) 中井タクシー
- ・「みささぎナビ」(羽曳野市、藤井寺市) FMT史遊会、Team Asuwell、羽曳野市観光協会、阪南大学
- ・「宇多津劇場」(宇多津町) 宇多津町

■社会課題

車椅子利用者が観光やまち歩きを楽しむためには、利用できるトイレ情報の事前把握が不可欠。しかし、「正確な位置情報が把握しにくい」、「観光地のトイレ情報が網羅されていない」、「施設情報が不十分」などの課題がある。

■課題解決への工夫

- 1) 図 1 に示す工程作業をおこない、社会的課題に対して高い満足度が得られるようにサービスの提供をおこなった。
- 2) データの付加価値
 - ・トイレの場所情報の把握
 - 【京 都 編】京都観光という視点で考えたとき、京都市の公衆トイレMAPだけでは圧倒的に足りない。そこで、観光タクシーの運転手に協力していただき、京都観光という視点でくまなく網羅した。
 - 【羽曳野編】民、学、産、官で、羽曳野市、藤井寺市トイレ情報の取材、撮影をおこなった。
 - 【宇多津編】宇多津町職員が、町営に限らず、町内全域でのトイレ情報の取材、撮影をおこなった。
 - ・寺社などの観光地や観光ルートにある車椅子利用可能なトイレも取材を行い追加した。
 - ・すべての現場へ取材し撮影をおこなった。
 - ・トイレの位置情報、トイレの写真(3 枚)、設備情報、利用可能時間などの情報を取材しデータ作成をおこなった。
- 3) 利便性の付加価値
 - ・地図上に避難所を全て表示、リストでも表示。
 - ・各避難所の詳細を写真付きで紹介。
 - ・現在位置から選択した避難所へルート案内。
 - ・選択した避難所をストリートビューで表示。
- 4) データ更新の容易性
 - ・データを簡単に作成。
 - ・更新できるように、データ作成支援クラウドを用意。
- 5) オープンデータ化
 - ・作成したデータを、オープンデータ化して公開。

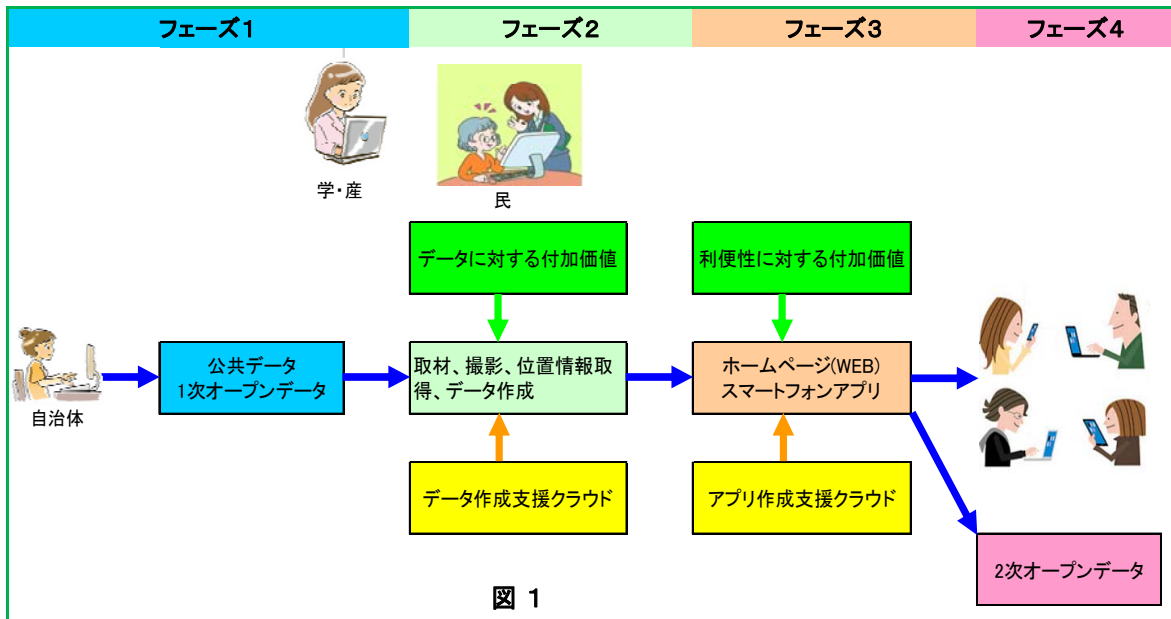


図 1

■公開URL

【Web】アプリ <http://i2navi.net/toilets>

【iOS アプリ※1】 <https://itunes.apple.com/jp/app/id398326620>

【Android アプリ※1】 <https://play.google.com/store/apps/details?id=net.flowertourism.itournavi>

【次的オープンデータの公開】

「ご当地なび」(京都市、宇治市) <http://nakai-taxi.com/>

「みささぎナビ」(羽曳野市、藤井寺市) <http://misasagi.i2navi.net/>

「宇多津劇場」(宇多津町) <http://utazutown.i2navi.net/>

※1. 「iOS アプリ」と「Android アプリ」は、「ご当地なび」をダウンロードしてください。



みささぎナビのトイレ情報(iOS アプリの場合)



観光地のトイレ情報(<http://i2navi.net/toilets>)

【問い合わせ先】

京都フラワーツーリズム 高木治夫

TEL:090-1133-1358 e-mail:haruo.takagi@gmail.com